

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

農 薬 抄 録

一 般 名 ダゾメット

(殺 菌 剤)

(作成年月日)

2012年8月27日改訂

(作成会社名) アグロ カネショウ株式会社

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネシヨウ株式会社にある。

目 次

	(頁)
I. 開発の経緯.....	I - 1
II. 物理的・化学的性状.....	II - 1
III. 生物活性.....	III - 1
IV. 適用および使用上の注意.....	IV - 1
V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係.....	V - 1
VI. 有用動植物等に及ぼす影響.....	VI - 1
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等.....	VII - 1
VIII. 毒 性.....	VIII - 1
1. 原 体	
(1) 急性毒性.....	VIII - 8
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性.....	VIII - 19
(3) 皮膚感作性.....	VIII - 25
(4) 急性神経毒性.....	VIII - 27
(5) 遅発性急性神経毒性.....	VIII - 35
(6) 90日間反復経口投与毒性.....	VIII - 36
(7) 21日間反復経皮投与毒性.....	VIII - 52
(8) 90日間反復吸入毒性.....	VIII - 56
(9) 反復経口投与神経毒性.....	VIII - 60
(10) 28日間反復投与遅発性神経毒性.....	VIII - 66
(11) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性.....	VIII - 67
(12) 繁殖毒性及び催奇形性.....	VIII - 131
(13) 変異原性.....	VIII - 157
(14) 生体機能影響.....	VIII - 175
2. 代謝物	
(1) 急性毒性.....	VIII - 183
(2) 催奇形性.....	VIII - 189
(3) 変異原性.....	VIII - 197
IX. 動植物および土壌等における代謝分解.....	IX - 1
(1) 動物代謝.....	IX - 11
(2) 植物代謝.....	IX - 38
(3) 土壌中動態.....	IX - 51
(4) 水中動態.....	IX - 55
(5) 土壌吸着.....	IX - 78
[附] ダゾメットの開発年表.....	附 - 1

I. 開発の経緯

バスマイド微粒剤の有効成分である Dazomet (化学名 3,5-ジメチルテトラヒドロ-2H-1,3,5-チアゾリン-2-チオン) は、1890 年代に合成され (Delepine)、その有用性について検討されたが、有効な活性を示す対象は長い間見出されなかった。1944 年にその構造が明らかにされ (Ainley)、当初木材の防腐剤として利用されていたが、その後、土壌中の水分によっての分解過程が明らかになり、生成する の土壌殺菌作用 や雑草種子の不活性化等の活性が見出され、農業分野における土壌消毒剤としての開発が本格化した。1968 年にベルギーで最初に農薬登録され、現在まで 46 カ国で登録されている。

我が国においては 1978 年に農薬登録されたが、当初は除草剤としての登録であった。土壌消毒剤として実用化するために、作物に対する薬害を回避する使用条件、使用方法についての様々な検討が行なわれた後、1978 年にカーネーション (萎凋病等)、菊 (ネグサレセンチュウ等) 及び芝生 (立枯病等) の非食用作物対象に農薬登録を申請、1980 年に登録された。その後順次花卉類やタバコへの適用が拡大されたが、その効果や、簡便な使用法、また処理時の刺激臭が少ないことから、食用作物への適用が熱望され、1986 年から本格的に食用作物における実用化試験や作物残留試験等を実施し、1990 年にキャベツ (根こぶ病)、はくさい (黄化病)、すいか (つる割病) 等の食用作物への適用拡大申請を行い、同年初めて、食用作物への適用が認められた。その後は主に野菜農家や生産団体からの要望を受けて適用拡大を続け、現在では 80 以上の作物に登録されている。

本剤は、微小な粒状の製剤であり、注意事項を遵守することにより、安全かつ容易に取扱、また処理することができる。土壌と混和することで、土壌水分と反応して、すみやかに が生成され、殺菌作用、殺センチュウ作用、除草活性、雑草等の種子の不活性化といった効果を発現し、作物の正常な生育を妨げる、病害、虫害、雑草害を広範囲に防除する。本剤から生成される には臭化メチルのようなオゾン層に対する影響は認められず、有望な臭化メチル代替農薬として広く認識されている。また、欧米では他の多くの土壌くん蒸剤は、その安全性や環境影響から、農薬としての用途が制限あるいは禁止され、本剤の有用性が益々注目されている。

EU においては、昨年 2011 年 3 月 11 日の SCFCAH (Standing Committee on the Food Chain and Animal Health) で審議され Directive 91/414/EEC に基づく Annex I への掲載が決定された。EU における ADI 及び関連する参照値は以下のとおり。

<u>ダゾメット</u>		
ADI	0.01 mg/kg bw/day	0.004 mg/kg bw/day
ARfD	0.03 mg/kg bw	0.03 mg/kg bw
AOEL	0.015 mg/kg bw/day	0.004 mg/kg bw/day

また、米国においては、2008 年に EPA で再評価され、同年 7 月 9 日付けで登録されている。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

海外における登録状況としては、各国で食用登録がなされ、下表に主要な登録国及び登録作物を示す。

ダゾメット（バスアミド微粒剤）の諸外国における登録状況

国名	登録年*	適用作物/場面
EU	2011	原体登録 (Annex I)
スウェーデン	1968	農作物全般
イギリス	1969	農作物全般
オーストリア	1969	農作物全般
ブルガリア	1972	農作物全般
イタリア	1974	農作物全般
ポーランド	1974	農作物全般
ヨルダン	1975	農作物全般
ルーマニア	1975	農作物全般
タスマニア	1976	農作物全般
デンマーク	1976	農作物全般
ニカラグア	1976	農作物全般
チェコスロバキア	1977	農作物全般
ハンガリー	1977	果実、野菜、特用作物、花卉、森林苗床
チュニジア	1977	野菜、花卉
ベネズエラ	1978	農作物全般
アイボリーコースト	1980	農作物全般
アルジェリア	1980	いも類
インドネシア	1980	特用作物
南アフリカ	1980	果実、野菜、特用作物、花卉、森林苗床
スイス	1982	果実、野菜
米国	1982	特用作物、花卉、森林苗床、園芸
サウジアラビア	1983	農作物全般
スペイン	1985	農作物全般
マレーシア	1986	農作物全般
パラグアイ	1986	農作物全般
エルサルバドル	1986	農作物全般
ボリビア	1987	農作物全般
パナマ	1987	農作物全般
キューバ	1988	農作物全般
ルクセンブルグ	1988	農作物全般

*最初の登録年を示す。

現在、計 80 カ国以上で登録されている。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称および化学構造

(1) 一般名

和名： ダゾメット

英名： dazomet

(2) 別名

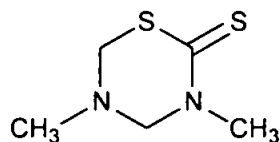
商品名： バスアミド微粒剤 (Basamid)

試験名： B JL-861、Fuin-2、Dazomet、バスアミド、
BAS 002 N、BAS 002 01 N

(3) 化学名

和名： 3,5-ジメチルテトラヒドロ-2H-1,3,5-チアジアジン-2-チオン (JMAFF)
テトラヒドロ-3,5-ジメチル-1,3,5-チアジアジン-2-チオン (IUPAC)
テトラヒドロ-3,5-ジメチル-2H-1,3,5-チアジアジン-2-チオン (CAS)
英名： 3,5-dimethyltetrahydro-2H-1,3,5-thiadiazine-2-thione (JMAFF)
tetrahydro-3,5-dimethyl-1,3,5-thiadiazine-2-thione (IUPAC)
tetrahydro-3,5-dimethyl-2H-1,3,5-thiadiazine-2-thione (CAS)

(4) 構造式



(5) 分子式

$C_5H_{10}N_2S_2$

(6) 分子量

162.3

(7) CAS No.

533 - 74 - 4

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

(8) 有効成分の物理化学的性状

項目	測定値 (測定条件)		測定方法/試験機関	
色 調	無色		官能法/BASF(GLP)/ 2000年	
形 状	結晶		官能法/BASF(GLP)/ 2000年	
臭 気	わずかな特徴的臭気		官能法/BASF(GLP)/ 2000年	
密 度	1.363 g/cm ³ (室温)		空気比較比重計法/ BASF(GLP)/2000年	
融 点	103.2~105.2℃		毛細管法/BASF(GLP)/ 2000年	
沸 点	測定不能 (150℃以上で分解)		DSC法/BASF(GLP)/ 2000年	
蒸気圧	5.8 × 10 ⁻⁴ Pa (20℃) 1.3 × 10 ⁻³ Pa (25℃)		熱重量法/BASF/ 1988年	
解離定数(pka)	解離せず		滴定法/BASF社(GLP)/ 2000年	
溶 解 度	水	3.5 g/L	(20℃) フラスコ法/BASF(GLP)/ 2000年	
	有 機 溶 媒	n-ヘプタン	<0.1 g/L	(20℃) フラスコ法/BASF(GLP) /1991年
		トルエン	8.6 g/L	
		ジクロロメタン	234 g/L	
		メタノール	21.3 g/L	
		アセトン	89.7 g/L	
		酢酸エチル	28.5 g/L	
		アセトニトリル	112 g/L	
		イソプロパノール	3.6 g/L	
		オクタノール	2.2 g/L	
		ルトロール	43.0 g/L	
オリーブ油	1.7 g/L			
オクターノル/水分配係数(log Pow)	0.6 (20℃)		HPLC法/BASF社(GLP) /2000年	
生物濃縮性	logPow が 3.5 未満であるため試験省略			
土壌吸着係数	測定不能 (土壌中で急速分解)		—	

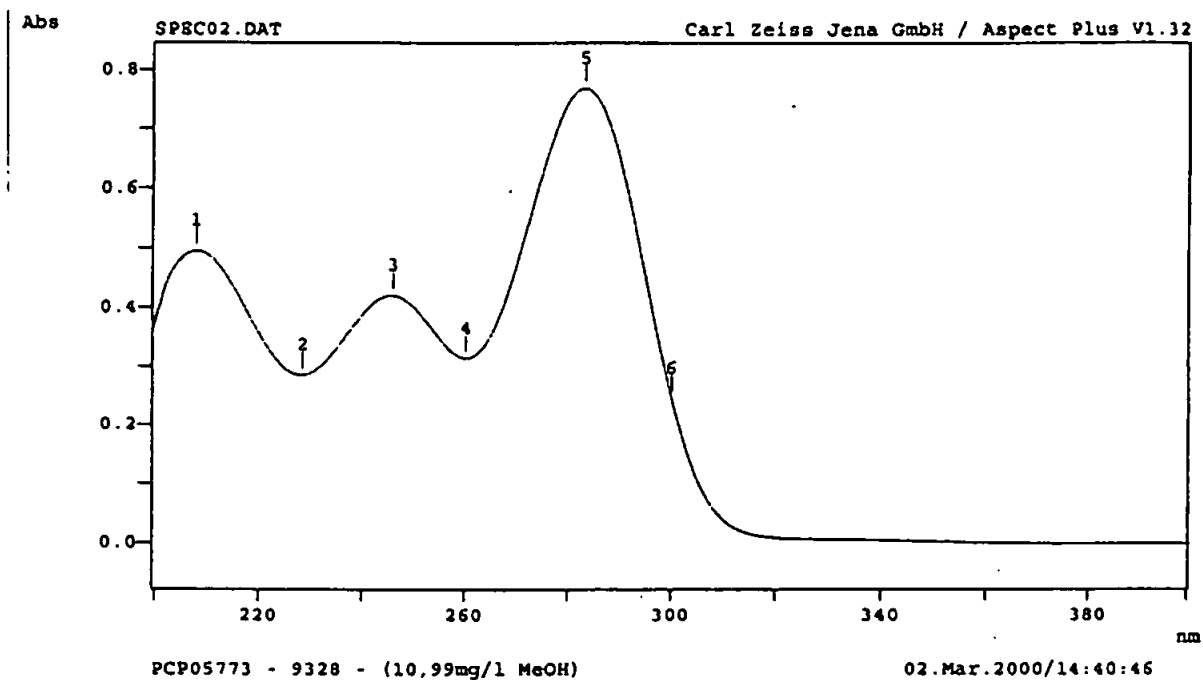
本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

項目		測定値 (測定条件)		測定方法/試験機関	
加水分解性		t _{1/2} 約 6 時間 (pH3、5 25℃)		OECD111/Huntingdon Research Centre/1986 年	
		t _{1/2} 2 時間 (pH7、25℃)			
		t _{1/2} 1 時間 (pH9、25℃)			
		t _{1/2} 6.88 時間 (pH4、25℃)		OECD 111/ (株)日曹分析センター (GLP) /2002 年	
t _{1/2} 6.07 時間 (pH7、25℃)					
t _{1/2} 3.39 時間 (pH9、25℃)					
		25℃ t _{1/2} 0.36 (pH4) 0.25 (pH5) t _{1/2} 0.21 (pH7) 0.12 (pH9)		OECD111/BASF 社(GLP) /2003 年	
		35℃ t _{1/2} 0.12 (pH4) 0.11 (pH5) t _{1/2} 0.07 (pH7) 0.05 (pH9)			
水中光分解性	緩衝液 (pH7、 滅菌)	t _{1/2} 4.7 時間 (照射)		キセノンランプ 16.53 W/m ² (波長範囲 300 ~ 400 nm) (25±1℃)	12 農産 8147/ (財)残留農薬研究所(GLP) /2003 年
		t _{1/2} 9.9 時間 (照射、東京春換算)			
		t _{1/2} 6.4 時間 (暗所)			
	自然水 (滅菌)	t _{1/2} 3.6 時間 (照射)			
t _{1/2} 7.6 時間 (照射、東京春換算)					
t _{1/2} 8.2 時間 (暗所)					
安定性	対熱	150℃以上で分解		DSC 法 / BASF 社 (GLP) / 1990 年	
	その他	-		-	
スペクトル		MS、NMR、UV、IR (別紙参照)		OECD 101/BASF 社 (GLP) / 2000 年	

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

〈別 紙〉

1. UV スペクトル



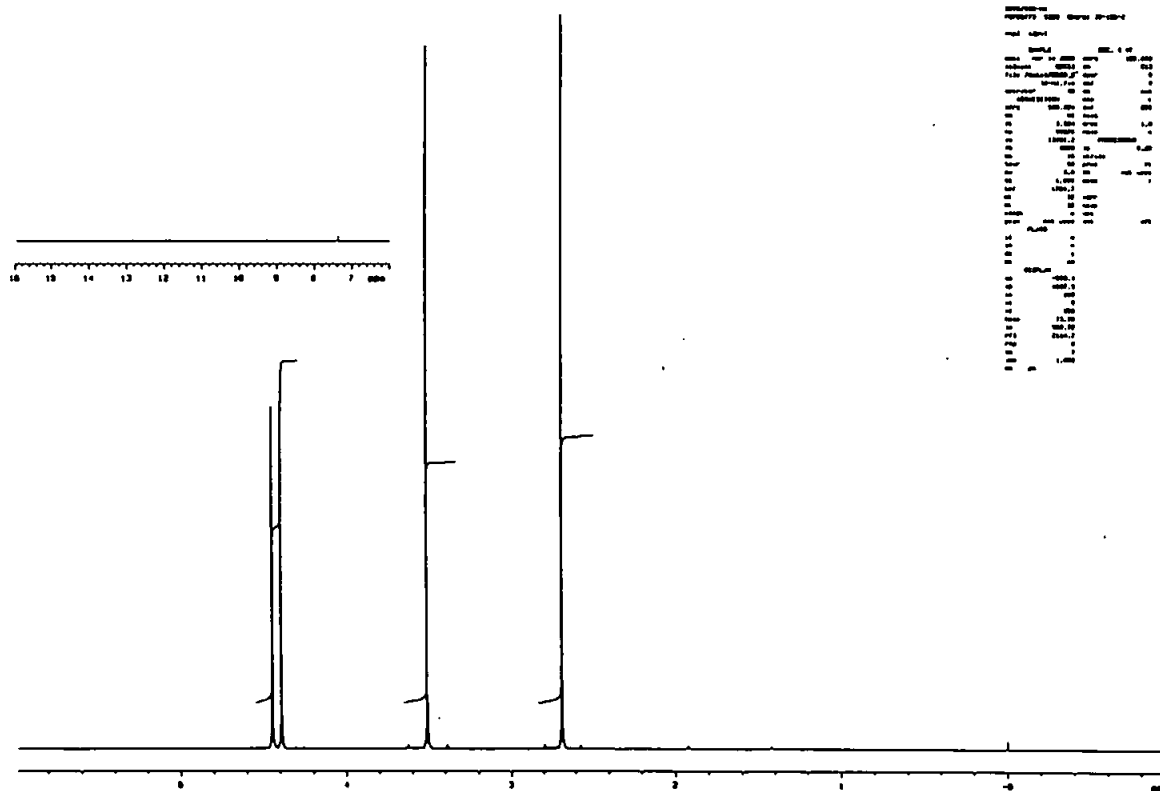
Pos.No.:	λ [nm]	AU	$\epsilon = \frac{1}{\text{Mol} \times \text{cm}}$
1	208.0	0.4939	7308
2	228.5	0.2844	4209
3	246.0	0.4196	6209
4	260.0	0.3130	4631
5	283.0	0.7690	11378
6	300.0	0.2488	3682

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

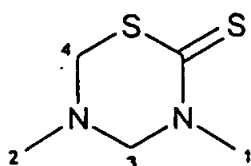
2. $^1\text{H-NMR}$

装置 : Varian Unity Inova (600 MHz)

溶媒 / 比較標準品 : CDCl_3 / TMS



ピークの帰属 :



2.68 ppm (s, 3H, H2)

3.51 ppm (s, 3H, H1)

4.39 ppm (s, 2H, H3)

4.45 ppm (s, 2H, H4)

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

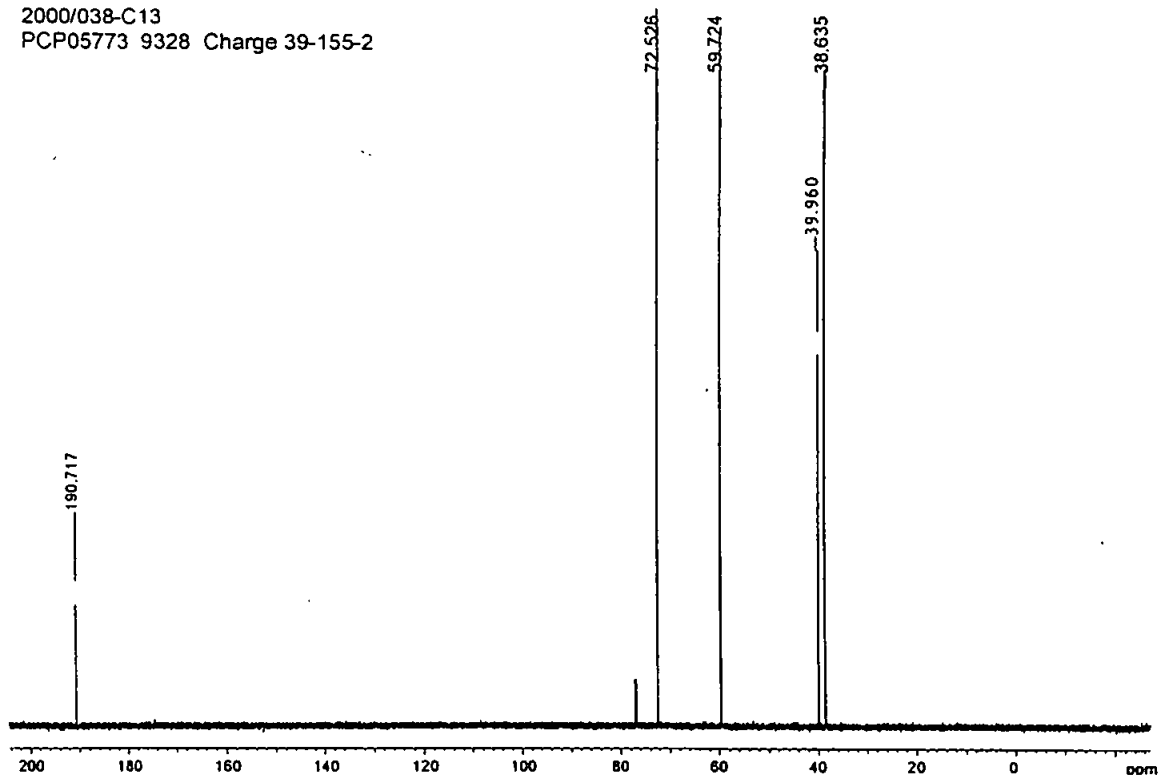
3. ^{13}C -NMR

装置 : Varian Unity Inova (600 MHz)

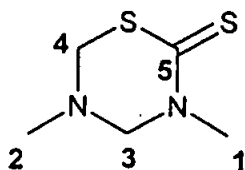
溶媒 / 比較標準品 : CDCl_3 / TMS (77.0 ppm)

2000/038-C13

PCP05773 9328 Charge 39-155-2



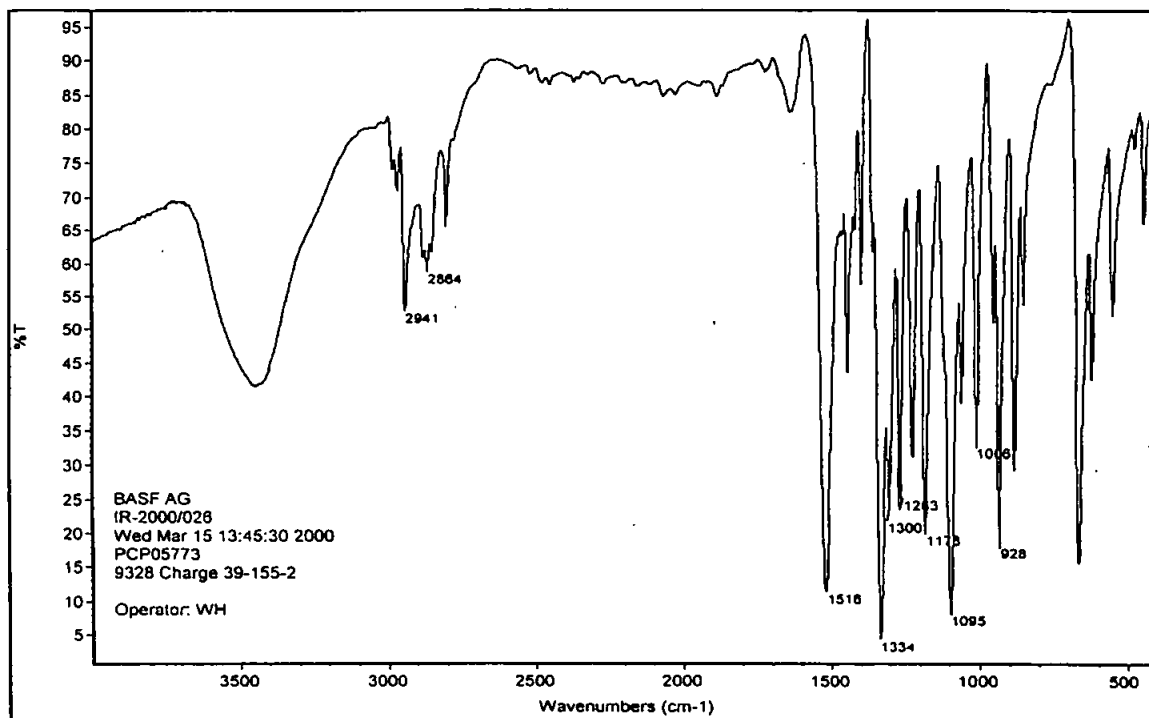
ピークの帰属 :



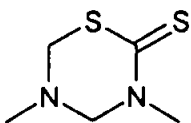
38.6 ppm (C1)
40.0 ppm (C2)
59.7 ppm (C4)
72.5 ppm (C3)
190.7 ppm (C5)

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネシヨウ株式会社にある。

4. IR



ピークの帰属：



- 2941 cm^{-1} C-H, asym.-str.
- 2864 cm^{-1} C-H, symm.-str.
- 1334 cm^{-1} C-N, str.
- 1095 cm^{-1} C=S, str.

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

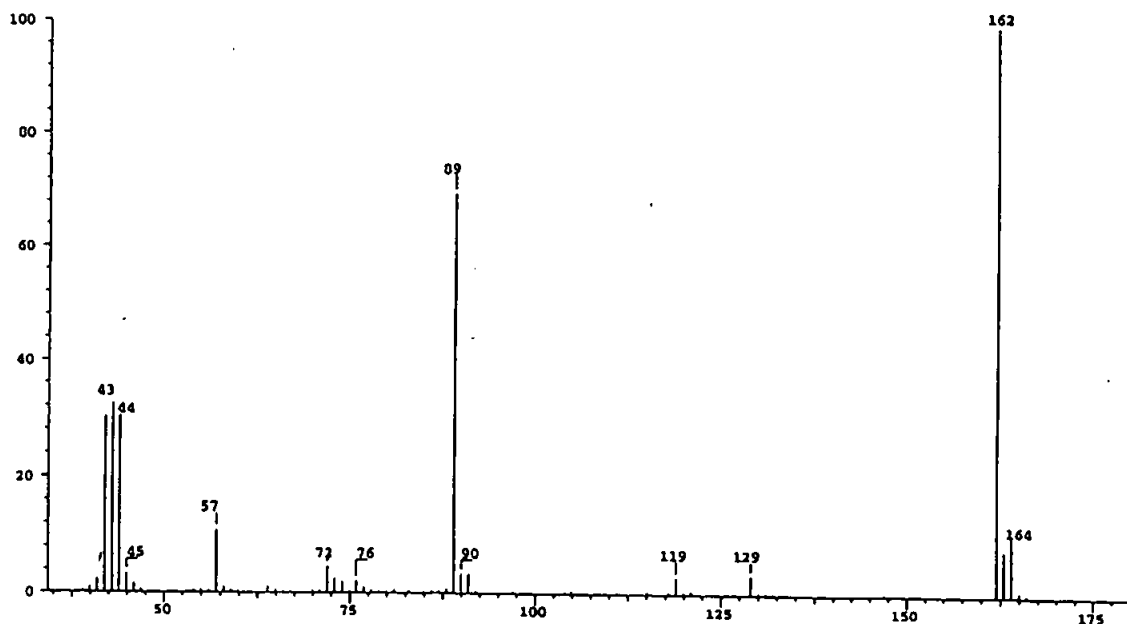
5. MS スペクトル

SPEC: jochim003 (15-MAR-00 14:15:32)
 Samp: 9328 Charge 39-155-2
 Comm: TSO7000 Direkt
 Oper: ED
 Base: 161.93
 Peak: 1000.0 mAU
 REG 09 @ 4.27 min (EI +Q1MS LMR UP LR) (+253>258 - 263>264 - 262>265)

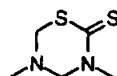
Scans: 1 > 271

Client: Jochim
 #Peaks: 301
 RIC: 2664289693

0.1E+00



m/z162



+

- m/z 129 (162 - HS)⁺
- m/z 119 (162 - H₂C=N-CH₃)⁺
- m/z 89 (162 - H₃C-N=C=S)⁺
- m/z 57 C₃H₇N⁺
- m/z 44 CS⁺
- m/z 43 H₂C=N-CH₃⁺
- m/z 42 H₂C=N⁺=CH₂

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

2. 代謝物の名称および化学構造

(1) 一般名

和名：

英名：

(2) 化学名

和名：

英名：

(4) 構造式

(5) 分子式

(6) 分子量

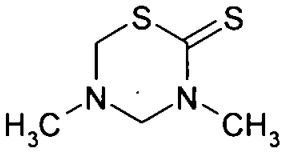
(7) CAS No.

(8) 代謝物の物理化学的性状

項目		測定結果 (測定条件)		測定方法/試験機関
蒸気圧				
水溶解度				
n-オクタノール/水分配係数				
土壌吸着係数				
加水分解性				
水中光分解性	蒸留水 (滅菌)			
	自然水 (滅菌)			

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式 (分子量)	含有量(%)	
	一般名	化学名			規格値	通常値
有効成分	ダゾメット	3,5-ジメチルトラヒドロ -2H-1,3,5 -チアジアジソン-2-チオン		C ₅ H ₁₀ N ₂ S ₂ (162.3)		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

4. 製剤の組成

1) 98%粉粒剤

ダゾメット	98%
水分等	2%

Ⅲ. 生物活性

1. 活性の範囲

現在まで効果が確認されている病害等は、以下のとおりである。

Fusarium 属菌、*Rhizoctonia* 属菌、*Pythium* 属菌、*Plasmodiphora* 属菌、
Aphanomyces 属菌、*Verticillium* 属菌、*Helicobasidium* 属菌、*Corticium* 属菌、
Pseudomonas 属菌等の土壌病原菌、
ネコブセンチュウ及び他のセンチュウ類、並びに畑地一年生雑草

2. 作用機構

ダゾメットを土壌に処理すると、土壌水分により速やかに分解して活性成分である
を生成し、土壌中に拡散する。この が土壌
中の微生物等と接触してそれらの SH 基を阻害することにより、それらを防除するもので
ある。

3. 作用特性と防除上の利点

ダゾメットの特性は

- ・ 土壌中に棲息する各種病原菌および線虫に対する幅広い効果、並びに
- ・ 土壌中の雑草種子を枯殺することによる雑草害除去
による幅広い優れた土壌消毒効果である。

作物に対する薬害については、ダゾメットを土壌に処理してから一定期間放置して十分土
壌消毒をした後、耕起によるガス抜きを行い、さらに土壌中に有害成分が残留していない
ことを確認（例えば、レタス、大根、カラシナ等の種子を用いて発芽試験を行う）した上
で播種又は定植を行うことから、その心配はない。

さらに、ダゾメットは以下に述べるような特徴を有している。

- ・ 微粒剤であるため取扱いが極めて簡便であり、土壌に処理する際にも特殊な土壌灌注
機等を必要とせず、手袋を着用しての手撒きが可能である。
- ・ 類白色微粒剤であるため、散布後均一に散布されたか否かの確認が確実にできる。
- ・ いやな刺激臭等がないため、処理した圃場の周辺に対する影響が極めて小さい。
- ・ 微粒剤であるため包装容器が通常の紙袋あるいはポリ袋であり、近年関心が高まっ
ている農薬使用後の包装容器の廃棄に関する問題がない。
- ・ このような包装形態であることから、輸送中あるいは貯蔵中に容器破損による液漏れ
の問題もなく、取扱いも容易である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

特に、製品の粒状を整え、粒径を一定の範囲にしていることから

- ・ 散布作業を容易にし、均一な散布を可能とするだけでなく、
- ・ 散布後の土壌中でのガス化の効率が高いものとなっている。

以上のようにダゾメット剤の特性・特徴は、土壌消毒剤として従来使用されている農薬にはみられないものであり、いずれの点においても従来の土壌消毒剤が直面している種々の問題点を克服するものと思われ、特に処理の際にいやな刺激臭がないことは、民家と農耕地がますます近接しつつある現状において極めて大きな意義があるものとする。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダゾメットを含む農薬の総使用回数
キャベツ	苗立枯病(リゾクトニア菌) 株腐病、萎黄病 パーティシリウム萎凋病 根こぶ病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	20~30kg/10a	は種又は定植 21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回
はくさい	根こぶ病、ネコブセンチュウ 一年生雑草、尻腐病 根くびれ病、黄化病					
だいこん	ネグサレセンチュウ	10~20kg/10a	は種21日前まで			
かぶ	パーティシリウム黒点病 根こぶ病、萎黄病 一年生雑草		は種又は定植 21日前まで			
こまつな	萎黄病、根こぶ病 一年生雑草	20~30kg/10a	は種10日前まで			
しろな			は種21日前まで			
ブロッコリー カリフラワー	根こぶ病 一年生雑草	20kg/10a	は種又は定植 21日前まで			
つぼみな						
チンゲンサイ						
ひろしまな		30kg/10a	は種又は定植 14日前まで			
みぶな みすな	立枯病(ピシウム菌) 根こぶ病、一年生雑草		は種12日前まで			
はつかだいこん	一年生雑草	20kg/10a	は種35日前まで			
きゅうり	苗立枯病(ピシウム菌) 苗立枯病(リゾクトニア菌)	200~400g/m ³	は種又は定植 21日前まで			
	つる割病、半身萎凋病 一年生雑草					
かぼちゃ	一年生雑草、フザリウム立枯病 苗立枯病(リゾクトニア菌)	20~30kg/10a		本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。		
メロン	黒点根腐病、つる割病 半身萎凋病、黒変根腐症 一年生雑草			30kg/10a	土壌に本剤の所定量を加え 十分混和する。	
	紅色根腐病					
すいか	苗立枯病(リゾクトニア菌)	200~400g/m ³			土壌に本剤の所定量を加え 十分混和する。	
	つる割病、一年生雑草					
にがうり	つる割病、一年生雑草	20~30kg/10a			本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	
	ネコブセンチュウ					

使用時期：平成 23 年 10 月 27 日付け適用拡大申請

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダブレットを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	苗立枯病(リゾクトニア菌)	200~300g/m ³	は種又は定植 21日前まで	1回	土壌に本剤の所定量を加え 十分混和する。	1回
	萎凋病、褐色根腐病 根腐萎凋病、半身萎凋病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg/10a				
	紅色根腐病	30kg/10a				
	青枯病	30~60kg/10a 30kg/10a				
なす	苗立枯病(リゾクトニア菌) 半身萎凋病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	20~30kg/10a			本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回
ばれいしょ	そうか病、粉状そうか病 黒あざ病、萎凋病、一年生雑草		植付21日前まで			
<u>ピーマン</u>	半身萎凋病 萎凋病、青枯病、 苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草	30kg/10a	は種又は定植 21日前まで			
とうがらし類	萎凋病、一年生雑草 疫病、青枯病 苗立枯病(リゾクトニア菌)	30kg/10a	定植21日前まで			
ねぎ	黒腐菌核病	30~60kg/10a	は種又は定植 14日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回
	紅色根腐病、ネギハモグリバエ	30kg/10a				
	白絹病、小菌核腐敗病 萎凋病、根腐萎凋病 ネコブセンチュウ、一年生雑草 苗立枯病(リゾクトニア菌)	20~30kg/10a				
わけぎ	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草				本剤の所定量を均一に散布 して深く混和する。	1回
たまねぎ	黒腐菌核病	30~60kg/10a	は種又は定植 21日前まで	1回		
	紅色根腐病	30kg/10a				
	乾腐病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20~30kg/10a				
	苗立枯病	20~40kg/10a	秋期(翌春は種)			
	一年生雑草	10~20kg/10a	は種14日前まで			
にんにく	イモグサレセンチュウ 紅色根腐病、一年生雑草		植付28日前まで		本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回
らっきょう	根腐病、ネコブセンチュウ 乾腐病、一年生雑草	30kg/10a	植付21日前まで			
にら	乾腐病、一年生雑草 紅色根腐病					
にんじん	萎凋病、根腐病 しみ腐病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	20~30kg/10a	は種又は定植 21日前まで			
パセリ	疫病、苗立枯病(リゾクトニア菌) 萎凋病、一年生雑草	30kg/10a			本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回
セルリー	萎凋病、一年生雑草					
あしたば	苗立枯病(リゾクトニア菌)		は種10日前まで			

適用病害虫名、使用量、使用時期：平成23年10月27日付け適用拡大申請

作物名：平成24年3月28日付け適用拡大申請

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダゾメットを含む農薬の総使用回数
しゅんぎく	萎凋病、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
ごぼう 葉ごぼう	萎凋病、黒あざ病 一年生雑草	20～30kg/10a	は種28日前まで			
もりあざみ	黒あざ病、一年生雑草 半身萎凋病	30kg/10a	は種21日前まで			
レタス	一年生雑草、すそ枯病	20～30kg/10a	は種又は定植14 日前まで			
	ネグサレセンチュウ	30kg/10a				
非結球レタス	一年生雑草、すそ枯病、根腐病					
食用ぎく	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く) 萎凋病、半身萎凋病 一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植 21日前まで			
	腎枯病	30kg/10a				
ふき	半身萎凋病、一年生雑草		定植21日前まで			
みつば	立枯病	20kg/10a				
豆類 (未成熟、 ただし、えだまめ、 夷えんどう、さやえ んどう、さやいんげ んを除く)	苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病、一年生雑草	30kg/10a	は種21日前まで			
さやいんげん	苗立枯病(リゾクトニア菌) 葉腐病、一年生雑草	20～30kg/10a				
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	30kg/10a	は種又は定植 21日前まで			
さやえんどう 夷えんどう	苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病、一年生雑草					
かんしょ	ネコブセンチュウ、紫紋羽病 つる割病、一年生雑草	20～30kg/10a				
こんにゃく	根腐病、白絹病 乾腐病、一年生雑草		植付21日前まで			
さといも さといも(葉柄)	乾腐病、一年生雑草 ネグサレセンチュウ					
しょうが	根茎腐敗病	30～60kg/10a	定植21日前まで			
	一年生雑草	20～30kg/10a				
葉しょうが	根茎腐敗病	30kg/10a	定植21日前まで			
	一年生雑草	20～30kg/10a				
みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	立枯症、一年生雑草	30kg/10a	定植42日前まで			
いちご	萎黄病、萎凋病、炭疽病 芽枯病、一年生雑草	20～30kg/10a	仮植又は定植 21日前まで			
	腎枯病、疫病	30kg/10a				
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ		は種21日前まで			
	立枯病、萎凋病、株腐病 根腐病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種10日前まで (地温20℃以上)			
てんさい	叢根病、苗立枯病	200～400g/m ³	秋期(翌春は種)			
やまのいも	根腐病、褐色腐敗病 一年生雑草	20～30kg/10a	植付21日前まで			

使用量、使用時期：平成23年10月27日付け適用拡大申請

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダブメットを含む農薬の総使用回数
つるむらさき	ネコブセンチュウ	20～30kg/10a	定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
しそ	青枯病、一年生雑草	30kg/10a	は種14日前まで			
モロヘイヤ	ネコブセンチュウ		定植30日前まで			
チャービル	一年生雑草	20kg/10a	は種42日前まで			
たばこ	センチュウ類、角斑病、野火病	10～20kg/10a	秋期(翌春植付)			
	立枯病、黒根病、疫病 一年生雑草	20～30kg/10a				
	センチュウ類、疫病	5～10kg/10a	春期(植付前)			
花き類 観葉植物	苗立枯病(リソクトニア菌) 株腐病、球根腐敗病 首腐病、半身萎凋病 萎凋病、萎黄病、白絹病 立枯病、根頭がんしゅ病 ネコブセンチュウ	20～30kg/10a	は種又は植付前			
	一年生雑草	20～60kg/10a				
	青枯病	30kg/10a				
せんりょう	立枯病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は植付前			
つつじ類	センチュウ類、一年生雑草					
カーネーション	萎凋細菌病					
さく	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く)					
ストック	苗腐病					
	萎凋病					
ぼたん しゃくやく	根黒斑病			30～40kg/10a	植付前	
スターチス	萎凋細菌病			20～30kg/10a	は種又は植付前	
グロリオサ	紅色根腐病					
スイトビー	腰折病					
さくらそう	軟腐病					
トルコギキョウ パンジー	根腐病					
アイランドポピー	萎縮病	50～100g/m ² 1株当り(4m ²) 400～600g 100g/m ² 50～100g/m ²	夏期～秋期			
りんご	紫紋羽病 白紋羽病					
なし	白紋羽病					
ぶどう						
芝	一年生雑草			目土用土 1m ³ 当り 100～200g	雑草発生前	
		30kg/10a	は種又は定植 21日前まで			
					被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。	
					土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。	
					本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤を処理する前に耕起整地すること。
- (3) 本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意すること。
 - ① 地温が 10℃ 以下のときには使用しないこと。
 - ② 砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆すること。
 - ③ 次の場合はガスの拡散が遅いので被覆期間を適宜延長すること。
 - ア. 重粘土質の土壌の場合
 - イ. 降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ウ. 地温が低い (15℃ 以下) 場合
- (4) センチュウが多発する条件、或いはトマト、なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用すること。
- (5) ガス抜きが不十分であると薬害が生ずるおそれがあるので、少なくとも 2 回は耕起によるガス抜きを実施すること。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行うこと。
- (6) 本剤を全面に処理する場合、深さ 15~25cm に土壌と十分に混和すること。特に、やまのいもに使用する場合、深さ 50~60cm に土壌と十分に混和すること。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防ぐこと。7~14 日後被覆を除去して、ガス抜きを行うこと。
- (7) 本剤を苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7~14 日後被覆を除去して、ガス抜きを行うこと。
- (8) 本剤が作物に直接ふれると薬害を生ずるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理すること。
- (9) 温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生ずるおそれがあるので使用しないこと。
- (10) りんご、桑、なし及びぶどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ 25~40cm (りんごの場合は深さ 40cm) に土壌と均一に混和すること。本剤処理 20 日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けること。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

- (11) ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の薬害を生ずるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認の上、は種すること。
- (12) しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意すること。
- (13) は種又は定植の 20～10 日前に使用する場合は、地温 20℃以上の条件に限って使用すること。
- (14) 芝の場合、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるので除草剤として、芝生に直接散布する事のないように注意すること。
- (15) たまねぎに使用する場合、次のことに注意すること。
 - ① は種 14 日前までに使用する場合、本剤を均一に散布後、レーキ等で浅く（2～3 cm）混和し、ビニール等で被覆する。7 日後に被覆を除去し、さらにその後 7 日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行うこと。
 - ② 秋期に使用する場合、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約 20 日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。
- (16) てんさいに秋期に使用する場合、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約 20 日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。
- (17) たばこに使用する場合、次のことに注意すること。
 - ① 秋期に使用する場合、本剤を均一に散布後、十分混和する。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植え付けること。
 - ② 春期使用する場合、本剤を散布後、十分混和する。混和後そのまま放置し、2 週間後に畦立てをし、その 2 日後にビニール等で被覆する。さらに 2 週間後に植え付けること。
- ~~(18) だいこんの「つまみ菜」及び「まびき菜」には使用しないこと。*~~
- (19) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (20) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (21) 適用作物群に属する作物又はその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

※平成 24 年 3 月 28 日付けの適用拡大時のだいこん（葉）の基準値上方修正に伴い（18）の注意事項を削除。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係

1. 作物残留試験

(1) 分析法の原理と操作概要

a. ダゾメットの分析

原 理

ダゾメットをジクロロメタンで抽出し、フロリジルカラムクロマトグラフィーによる精製後、高速液体クロマトグラフ(UV 検出器)で定量する。

操作概要

試料にジエチルジチオカルバミン酸ナトリウムを添加して磨砕均一化し、ジクロロメタンを加えて抽出する。抽出液を濾過後、濾液を減圧濃縮し、濃縮液をフロリジルカラムクロマトグラフィーにより精製する。試料由来の夾雑物影響が大きい場合は、さらにシリカゲルカラムクロマトグラフィーまたはアルミナカラムクロマトグラフィーにより追加精製を行い、高速液体クロマトグラフ(UV 検出器)で定量する。

b. の分析

原 理

加熱還流により生成する をヘキサンまたは酢酸エチルに抽出し、ガスクロマトグラフ(N-P FID または NPD)で定量する。

操作概要

磨砕均一化した試料に水及びヘキサンまたは酢酸エチルを添加し、蒸留装置で約 1 時間加熱還流して試料中のダゾメットを に変換、抽出する。留出液に塩化ナトリウムを添加して振とう後、ヘキサン層または酢酸エチル層を分取してガスクロマトグラフ(N-P FID または NPD) で定量する。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

(2) 分析対象の化合物

a. ダゾメット

化学名： Tetrahydro-3,5-dimethyl-1,3,5-thiadiazine-2-thione
3,5-ジメチルテトラヒドロ-2H-1,3,5-チアジジン-2-チオン

分子式 (分子量) : C₅H₁₀N₂S₂ (162.3)

b.

化学名：

分子式 (分子量)：

(3) 残留試験結果

次頁以降に作物残留試験結果を一覧表にまとめた。結果はすべて とダゾメットの合量(換算値)とした。なおダゾメット残留量のみ記載の試験については下式により とダゾメットの合量(換算値)を算出した。

ダゾメットと の合量(換算値) = ダゾメット残留量 / 換算係数 2.22*

*ダゾメットと の分子量比

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

ダゾメットの作物残留試験結果

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値(換算値)			
					公的 分析		社内 分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ばれいしょ (露地) (塊茎) 昭和62年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	群馬県 農総試 (ワセシロ)	0 1	- 137	<0.005 0.022	<0.005 0.021	<0.005 0.014	<0.005 0.013
		長崎県 総農試 (ニシユタカ)	0 1	- 102	<0.005 0.047	<0.005 0.043	<0.005 0.031	<0.005 0.030
分析機関名							(株)化学分析コンサルタント	
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成3年度	—	群馬県 農総試 (男爵薯)	0	-			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	137			0.009	0.009
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	137			0.010	0.010
	—	広島県 農業試 (農林1号)	0	-			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	108			0.003	0.003
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	108			0.007	0.007
	—	長崎県 総農試 (ニシユタカ)	0	-			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	129			0.016	0.015
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	129			0.023	0.023
分析機関名							(株)化学分析コンサルタント	
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成4年度	—	北海道 道南 農業試 (男爵)	0	-			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	134			0.047	0.046
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	134			0.049	0.047
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
さといも (露地) (塊茎) 平成5年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和处理	高知県 農技セ (改良直吉)	0 1	- 224	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		鹿児島県 農試 (大吉)	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	221	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
かんしょ (露地) (塊根) 平成9年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	群馬県 植防 (ベニアズマ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	140	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		大分県 植防 (とさべに)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	128	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
やまのいも (露地) (塊茎) 昭和62年度	—	茨城県 農試 (在来種ナガイモ)	0	—			0.007	0.007
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	184			0.010	0.010
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	184			0.008	0.008
	—	群馬県 農総試 (中長首系 イチョウイモ)	0	—			0.008	0.008
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	162			0.023	0.022
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	162			0.024	0.023
	—	神奈川県 園試 (在来種ナガイモ)	0	—			<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	243			<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	243			<0.005	<0.005
	分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント
やまのいも (露地) (塊茎) 昭和63年度	—	神奈川県 園試 (とっくり)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	227	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	227	0.005	0.005	<0.005	<0.005
	—	長野県 植防 (在来種ナガイモ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	187	0.014	0.013	0.015	0.014
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	187	0.019	0.018	0.018	0.017

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダノメットの含量値(換算値)			
					公的分析		社内分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
こんにゃくいも (露地) (球茎) 昭和63年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	茨城県 農試 (在来種)	0 1	— 183	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		群馬県 農総試 (あかぎおおだま)	0 1	— 171	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
てんさい (露地) (根部) 昭和62年度	微粒剤(98%) 400g/m ² +30kg/10a (苗床+本圃)	北海道 中央農試 (モノヒル)	0 2	— 369	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		北海道 北見農試 (モノエース)	0 2	— 401	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
てんさい (露地・無袋) (葉部) 昭和63年度	微粒剤(98%) 400g/m ² +30kg/10a (苗床+本圃)	北海道 中央農試 (モノヒル)	0 2	— 369	<0.005 0.019	<0.005 0.018	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		北海道 北見農試 (モノエース)	0 2	— 401	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
だいこん (露地) (根部) 平成2年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (夏みの早生3号)	0 1	— 68	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		日植防 高知 (耐病総太り)	0 1	— 90	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
だいこん (露地) (葉部) 平成2年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (夏みの早生3号)	0 1	— 68	<0.005 0.005	<0.005 0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		日植防 高知 (耐病総太り)	0 1	— 90	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
だいこん (露地) (根部) 平成10年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	新潟県 農総研 (夏岬)	0 1	— 78	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		岐阜県 植防 (耐病総太り)	0 1	— 73	<0.002 0.004	<0.002 0.004	<0.002 0.005	<0.002 0.005
だいこん (露地) (葉部) 平成10年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	新潟県 農総研 (夏岬)	0 1	— 78	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		岐阜県 植防 (耐病総太り)	0 1	— 73	<0.002 0.005	<0.002 0.005	<0.002 0.005	<0.002 0.004

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値 (換算値)			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
だいこん (露地) (つまみ菜) 平成10年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	新潟県 農総研 (象岬)	0 1	— 27			<0.002 0.021	<0.002 0.021
		岐阜県 植防 (耐病総太り)	0 1	— 35			<0.002 0.613	<0.002 0.599
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
だいこん (露地) (間引き菜) 平成10年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	新潟県 農総研 (象岬)	0 1	— 34			<0.002 0.006	<0.002 0.005
		岐阜県 植防 (耐病総太り)	0 1	— 42			<0.002 0.280	<0.002 0.277
分析機関名					(財)九州環境管理協会			
はつかだいこん (施設) (根部) 平成17年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	福岡県 農総試(糸島郡) (ブレック ファースト)	0	—	<0.005	<0.005		
			1	63	<0.005	<0.005		
			1	68	<0.005	<0.005		
			1	73	<0.005	<0.005		
はつかだいこん (施設) (葉部) 平成17年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	福岡県 農総試(糸島郡) (ブレック ファースト)	0	—	<0.005	<0.005		
			1	63	<0.005	<0.005		
			1	68	<0.005	<0.005		
			1	73	<0.005	<0.005		
分析機関名					(財)九州環境管理協会			
はつかだいこん (施設) (根部) 平成17年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	福岡県 農総試(久留米) (グッド)	0	—	<0.005	<0.005		
			1	84	0.005	0.005		
			1	89	<0.005	<0.005		
			1	94	<0.005	<0.005		
はつかだいこん (施設) (葉部) 平成17年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	福岡県 農総試(久留米) (グッド)	0	—	<0.005	<0.005		
			1	84	<0.005	<0.005		
			1	89	<0.005	<0.005		
			1	94	<0.005	<0.005		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果				
					とダゾメットの含量値(換算値)				
					公 的 分 析		社 内 分 析		
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値	
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント		
かぶ (露地) (根部) 昭和62年度	—	三重県 農技セ (早生大かぶ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	92	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	92	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	—	日植防 高知 (聖護院かぶ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	52	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	52	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント		
かぶ (露地) (葉部) 昭和62年度	—	三重県 農技セ (早生大かぶ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	92	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	92	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	—	日植防 高知 (聖護院かぶ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	52	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	52	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
分析機関名					(財)残留農薬研究所		兼商化学工業(株)		
はくさい (露地) (茎葉) 昭和56年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 中信農試 (耐病60日 ハクサイ)	0	—	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	
			1	100	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	
		大阪府 農技セ (宇治交配 エール)	0	—	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
			1	164	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
分析機関名							(株)化学分析コンサルタント		
はくさい (露地) (茎葉) 平成2年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (あこがれ)	0	—			<0.005	<0.005	
			1	83			<0.005	<0.005	
		長野県 植防松代研 (無双白菜)	0	—			<0.005	<0.005	
			1	74			<0.005	<0.005	

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					とダゾメットの含量値 (換算値)					
					公的分析		社内分析			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント			
キャベツ (露地) (葉球) 昭和62年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (末広)	0 1	- 92	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005		
		群馬県 農総試 (YR 綿秋強力 152)	0 1	- 115	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005		
分析機関名					(財)残留農薬研究所		東京都農業試験場			
こまつな (施設) (茎葉) 平成8年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	群馬県 農 試	0 1	- 33	<0.002 0.003	<0.002 0.003	<0.002 0.003	<0.002 0.003		
		(せいせん7号)	1	43	0.004	0.004	<0.002	<0.002		
		東京都 農 試	0 1	- 31	<0.002 0.004	<0.002 0.004	<0.002 0.002	<0.002 0.002		
		(はるみ)	1	41	0.004	0.004	<0.002	<0.002		
分析機関名					京都府農業総合研究所					
みずな (きょうな) (施設) (葉茎) 平成4年度	-	京都府 農総研	0	-	<0.005	<0.005				
		船井郡和知町 阿栖里	1	38	<0.005	<0.005				
		(早生白糸 千筋京水菜)	1	38	0.007	0.006				
		京都府 農総研	0	-	<0.005	<0.005				
		船井郡和知町 市場	1	38	<0.005	<0.005				
		(早生白糸 千筋京水菜)	1	38	0.014	0.014				
分析機関名					(株)エコプロリサーチ					
みぶな (きょうな) (施設) (茎葉) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	京都府 農総研日吉町	0 1	- 35			<0.009 <0.009	<0.009 <0.009		
		(京 錦)	1 1	38 42			<0.009 <0.009	<0.009 <0.009		
		京都府 農総研亀岡市	0 1	- 32			<0.009 <0.009	<0.009 <0.009		
		(京 錦)	1 1	35 39			<0.009 <0.009	<0.009 <0.009		
		分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
		チンゲンサイ (施設) (茎葉) 平成12年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	埼玉県 植 防 (背軸チンゲン)	0 1	- 48	<0.002 0.003	<0.002 0.003	<0.002 0.003	<0.002 0.002
				兵庫県 中央農技セ (背 帝)	0 1	- 47	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダノメットの合量値 (換算値)			
					公的分析		社内分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
カリフラワー (露地) (花蕾) 平成14年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 農試 (スノークラウン)	0 1	— 79	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		愛知県 農総試 (スノークラウン)	0 1	— 125	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ブロッコリー (露地) (花蕾) 平成14年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 植防 (ハイツ)	0 1	— 76	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		愛知県 農総試 (まり緑)	0 1	— 113	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
分析機関名					大阪府立農林技術センター			
しろな (施設) (茎葉) 平成7年度	微粒剤(98%) 15 kg/10a 土壌混和	大阪府 農林技セ (晩生大阪シロナ)	0 1	— 50	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01		
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		0 1	— 50	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01		
分析機関名					大阪府立農林技術センター			
しろな (施設) (茎葉) 平成8年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	大阪府 農林技セ (晩生大阪シロナ)	0 1	— 44	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004		
分析機関名					香川県農業試験場		島根県農業試験場	
ひろしまな (露地) (茎葉) 平成9年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	島根県農試 (石見町)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	83	0.006	0.006	0.008	0.007
			1	93	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
分析機関名					香川県農業試験場		島根県農業試験場	
ひろしまな (露地) (茎葉) 平成10年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	島根県農試 (瑞穂町)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	56	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	66	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	66	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	76	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダノメットの合算値 (換算値)			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					日本エコテック(株)			
つぼみ菜 (施設) (茎葉) 平成17年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	宮城県 農園総研石巻 (あでやかつぼみ菜)	0 1	— 85			<0.008 0.032	<0.008 0.032
		宮城県 農園総研登米 (三陸つぼみ菜)	0 1	— 83			<0.008 <0.008	<0.008 <0.008
分析機関名					(社)日本植物防疫協会		(株)日曹分析センター	
ごぼう (露地) (根部) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	北海道 花野枝セ (柳川理想)	0 1	— 185	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		宮城県 総農試 (柳川理想)	0 1	— 182	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
分析機関名					(財)残留農薬研究所		大阪府立農林技術センター	
しゅんぎく (施設) (茎葉) 平成9年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	京都府 農総研 (中葉新菊)	0 1	— 57	0.004 <0.004	0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		大阪府 農技センター (大葉春菊)	0 1	— 72	0.004 0.014	0.004 0.009	0.011 0.015	0.010 0.013
分析機関名					(社)日本植物防疫協会		(株)日曹分析センター	
レタス (施設) (茎葉) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 農総試 (シナノホープ)	0 1	— 63	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		岐阜県 植防 (シスコ)	0 1	— 59	<0.004 0.004	<0.004 0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
レタス (施設) (茎葉) 平成22年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (ファルコン)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	54	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	61	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	68	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		長野県 植防 (ステディ)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	58	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
1	65	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
1	72	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
分析機関名					(財)日本食品分析センター			
葉ごぼう (露地) (茎葉及び根) 平成19年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	大阪府 環境農林水産総研 刑部 (在来種)	0	—	<0.02	<0.02		
			1	91	<0.02	<0.02		
			1	98	<0.02	<0.02		
		大阪府 環境農林水産総研 教興寺 (在来種)	0	—	<0.02	<0.02		
			1	91	<0.02	<0.02		
			1	98	<0.02	<0.02		
1	101	<0.02	<0.02					

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)日本食品分析センター			
やまごぼう (もりあざみ) (露地) (根) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	岐阜県 農技研中津川 (在来種)	0	—	<0.008	<0.008		
			1	161	<0.008	<0.008		
			1	168	<0.008	<0.008		
			1	175	<0.008	<0.008		
		岐阜県 農技研恵那 (在来種)	0	—	<0.008	<0.008		
			1	161	<0.008	<0.008		
			1	168	<0.008	<0.008		
			1	175	<0.008	<0.008		
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)日曹分析センター	
ふき (露地・施設) (可食部) 平成15年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	群馬県 植防 (吾妻在来)	0	—	<0.004	<0.004	<0.008	<0.008
			1	353	<0.004	<0.004	<0.008	<0.008
		愛知県 農総試 (愛知早生ふき)	0	—	<0.004	<0.004	<0.008	<0.008
			1	110	<0.004	<0.004	<0.008	<0.008
分析機関名							日本環境科学(株)	
食用ぎく (施設) (花全体) 平成17年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	山形県 農総研 (寿)	0	—			<0.004	<0.004
			1	127			<0.004	<0.004
		山形県 病害虫防除所 (山形1号)	0	—			<0.004	<0.004
			1	144			<0.004	<0.004
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
たまねぎ (露地) (鱗茎) 昭和62年度	—	和歌山県 植防 (ターボ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	270	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			微粒剤(98%) 400 g/m ³ + 30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和	2	236	0.022	0.021	0.048
	—	佐賀県 畑作試 (もみじ3号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	273	0.014	0.013	0.017	0.017
			微粒剤(98%) 400 g/m ³ + 30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和	2	184	0.013	0.012	0.021

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成12年度	微粒剤(98%) 20 g/m ² (苗床) 土壌混和	和歌山県 植防 (アース)	0 1	— 255	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		佐賀県 農試研セ (アース)	0 1	— 239	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
分析機関名					(社)日本植物防疫協会		(株)日曹分析センター	
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 植防 (甘70)	0 1	— 245	<0.004 0.014	<0.004 0.014	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		兵庫県 植防 (進々丸)	0 1	— 200	<0.004 0.014	<0.004 0.014	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成21年度	微粒剤(98%) 60 kg/10a 土壌混和	北海道 植防 (オホーツク 222)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	131	<0.02	<0.02	0.03	0.02
			1	138	<0.02	<0.02	0.02	0.02
			1	145	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		日植防 牛久 (OL黄)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	224	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
1	231	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
1	238	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ね ぎ (露 地) (茎 葉) 平成 4 年度	—	日植防 牛久 (根深ねぎ) (一文字黒昇り)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	115	0.002	0.002	0.003	0.003
	微粒剤(98%) 30 g/m ² (苗床) 土壌混和		1	335	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	115	0.002	0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	115	0.002	0.002	0.004	0.003
	—	長野県 植 防 (根深ねぎ) (松本一本太葱)	0	—	0.002	0.002	0.003	0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	164	0.002	0.002	0.005	0.005
	微粒剤(98%) 30 g/m ² (苗床) 土壌混和		1	245	0.002	0.002	0.003	0.003
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	164	0.002	0.002	0.005	0.005
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	164	0.003	0.003	0.005	0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値(換算値)			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ねぎ (露地) (茎葉) 平成21年度	微粒剤(98%) 60 kg/10a 土壌混和	日植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		牛久	1	141	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		(根深ねぎ)	1	148	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		(越谷黒一本太葱)	1	155	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		三重県	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		植防	1	84	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		(葉ねぎ) (鴨頭)	1 1	91 98	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ねぎ (露地) (茎葉) 平成22年度	微粒剤(98%) 60 kg/10a 土壌混和	日植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		牛久	1	172	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		(根深ねぎ)	1	179	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		(秀逸)	1	186	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		日植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		高知	1	55	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		(葉ねぎ) (九条太)	1 1	62 69	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平成3年度 平成4年度	—	日植防 牛久 (九条太)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	136			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 g/m ² (苗床) 土壌混和		1	245			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	136			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	136			<0.002	<0.002
	—	日植防 高知 (五条)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	97			0.010	0.009
	微粒剤(98%) 30 g/m ² (苗床) 土壌混和		1	252			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	97			0.010	0.010
	微粒剤(98%) 30 g/m ² + 30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	97			0.014	0.014

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの合算値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					青森県りんご試験場			
にんにく (露地) (鱗片) 平成2年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	青森県 農試 (福地ホワイト)	0 1	— 289	0.008 0.022	0.006 0.021		
		青森県 畑作園試 (福地ホワイト)	0 1	— 295	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004		
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)日曹分析センター	
にら (施設) (茎葉) 平成15年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	福島県 植防 (ワシターググリーンベルト)	0 1	— 213	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.008 <0.008	<0.008 <0.008
		高知県 農技セ (スパーグリーンベルト)	0 1	— 144	<0.004 0.004	<0.004 0.004	<0.008 <0.008	<0.008 <0.008
分析機関名					広島県立農業技術センター			
わけぎ (露地) (葉及び鱗茎) 平成16年度	—	広島県 農技セ 御調郡 (広島1号)	0	—	<0.01	<0.01		
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	47	0.02	0.02		
			1	48	0.01	0.01		
			1	54	<0.01	<0.01		
			1	54	<0.01	<0.01		
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	47	0.01	0.01		
		1	48	0.02	0.02			
	—	広島県 農技セ 三原市 (広島1号)	0	—	<0.01	<0.01		
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	47	0.02	0.02		
			1	54	<0.01	<0.01		
1			54	<0.01	<0.01			
微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	1	47	0.03	0.03				
	1	54	<0.01	<0.01				
1	54	<0.01	<0.01					
分析機関名					(財)残留農薬研究所			
らっきょう (露地) (鱗茎) 平成7年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	鳥取県 園試東伯郡 (ラクダ)	0 1	— 292	<0.002 0.017	<0.002 0.016		
		鳥取県 園試岩美郡 (ラクダ)	0 1	— 314	0.008 0.013	0.007 0.013		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公的 分析		社内 分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
にんじん (露地) (根部) 昭和62年度	—	日植防 牛久 (いなり5寸)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	154	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	154	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	—	長野県 植防研 (農林紅福5寸)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	126	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	126	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
分析機関名							(株)化学分析コンサルタント	
にんじん (露地) (根部) 昭和62年度	—	日植防 牛久 (新黒田5寸)	0	—			<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	124			<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	124			<0.005	<0.005
分析機関名							(株)化学分析コンサルタント	
にんじん (露地) (根部) 昭和62年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (新黒田5寸)	0	—			<0.005	<0.005
			1	92			<0.005	<0.005
		長野県 植防研 (農林紅福5寸)	0	—			<0.005	<0.005
			1	83			<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					島根県農業試験場		香川県農業試験場	
パセリ (施設) (茎葉) 平成9年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	香川県 農 試 (地域特産品種)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	80	0.005	0.005	0.005	0.005
			1	94	0.004	0.004	0.005	0.005
分析機関名					島根県農業試験場		香川県農業試験場	
パセリ (施設) (茎葉) 平成10年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	香川県 農 試 (地域特産品種)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
			1	80	<0.004	<0.004	0.007	0.007
			1	95	<0.004	<0.004	0.005	0.005
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
セルリー (施設) (茎葉) 平成13年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 農事試 (諏訪3号)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	91	0.002	0.002	<0.002	<0.002
		静岡県 農 試 (コーネル619)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
1	114		0.002	0.002	<0.002	<0.002		
分析機関名					日本エコテック(株)			
みつば (施設) (茎葉) 平成17年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	宮城県 農園総研(南郷) (柳川二号みつば)	0	—			<0.02	<0.02
			1	80			<0.02	<0.02
		宮城県 農園総研(名取) (柳川二号みつば)	0	—			<0.02	<0.02
1	130				<0.02	<0.02		
分析機関名					東京都農林総合研究センター			
あしたば (露地) (茎葉) 平成19年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	東京都 島しょ 農水総センター 大島町	0	—	<0.04	<0.04		
			1	248	<0.04	<0.04		
			1	259	<0.04	<0.04		
		東京都 島しょ 農水総センター 八丈島町	0	—	<0.04	<0.04		
			1	223	<0.04	<0.04		
			1	237	<0.04	<0.04		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
トマト (施設) (果実) 昭和62年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (豊 竜)	0 1	- 83	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		長野県 農事試 (米 寿)	0 1	- 92	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
トマト (施設) (果実) 平成19年度	微粒剤(98%) 60 kg/10a 土壌混和	群馬県 植 防 (麗 夏)	0	-	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	71	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	78	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	85	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
		長野県 植防南信研 (ハウス桃太郎)	0 1 1 1	- 77 84 91	<0.02 0.10 0.10 0.02	<0.02 0.10 0.10 0.02	<0.008 0.107 0.108 0.112	<0.008 0.107 0.106 0.111
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ミニトマト (施設) (果実) 平成22年度	微粒剤(98%) 60 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (ミニキャロル)	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	98	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	105	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	112	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		日植防 宮 崎 (千 果)	0 1 1 1	- 80 87 94	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ピーマン (施設) (果実) 平成21年度	微粒剤(98%) 30kg/10a 土壌混和	岩手県 植 防 (はるみどり)	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	72	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	78	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	93	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		日植防 千 葉 (京みどり)	0 1 1 1	- 87 94 108	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02 <0.02
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
なす (施設) (果実) 昭和62年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (千両2号)	0 1	- 66	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		三重県 農技セ (千両2号)	0 1	- 51	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005

作物名：平成24年3月28日付け適用拡大申請

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの含量値 (換算値)			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					京都府農業総合研究所		(株)化学分析コンサルタント	
甘 長 とうがらし (施 設) (果 実) 平成 11 年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	京都府 農総研 (伏見甘長 とうがらし)	0 1	— 106	<0.003 <0.003	<0.003 <0.003	<0.002 0.003	<0.002 0.003
		日植防 宮 崎 (伏見甘長 とうがらし)	0 1	— 73	<0.003 <0.003	<0.003 <0.003	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)日曹分析センター	
ししとう (施 設) (果 実) 平成 16 年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 農試原村 (青とう)	0 1	— 84	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		岐阜県 植 防 (ししとう)	0 1	— 76	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
きゅうり (施設) (果実) 昭和63年度	—	長野県 農事試験原村 (さつきみどり)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	67	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	67	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	106	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	67	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	—	日植防 高知 (シャープワン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	55	0.023	0.023	0.029	0.028
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	55	0.029	0.029	0.037	0.036
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	79	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	55	0.039	0.038	0.055	0.054

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの含量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
きゅうり (施設) (果実) 平成3年度	—	日植防 牛久 (シャープワン)	0	—			0.002	0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	54			0.002	0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	90			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	54			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	54			0.003	0.003
	—	千葉県 農試 (南極2号)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	58			0.003	0.003
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	70			0.003	0.003
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	58			0.003	0.003
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	58			0.005	0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの含量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
きゅうり (施設) (果実) 平成3年度	—	千葉県 農 試 砂地野菜研 (シャープ1)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	75			0.025	0.025
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	83			0.006	0.006
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	75			0.016	0.016
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	75			0.020	0.020
	—	長野県 農 試 (ときわきゅうり かぜみどり)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	47			0.016	0.014
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	73			0.003	0.003
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	47			0.030	0.030
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	47			0.029	0.029

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの合量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
きゅうり (施設) (果実) 平成3年度	—	長野県 植 防 (南極1号)	0	—			0.002	0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	55			0.005	0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	66			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	55			0.004	0.004
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	55			0.003	0.002
	—	石川県 植 防 (シャープ1)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	49			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	68			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	49			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	49			<0.002	<0.002

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
きゅうり (施設) (果実) 平成3年度	—	日植防 高知 (シャープワン)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	45			0.036	0.036
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	71			0.016	0.016
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ 20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	45			0.026	0.026
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	45			0.032	0.032
	—	宮崎県 総農試 (シャープワン)	0	—			<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	64			0.034	0.033
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	74			0.005	0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ 20 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	64			0.028	0.028
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	64			0.032	0.030

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの合量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
かぼちゃ (施設) (果実) 平成4年度	—	岩手県 植 防 (えびす)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	139	0.019	0.018	0.010	0.010
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	139	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	139	0.010	0.010	0.009	0.009
	—	長野県 植 防 (みやこ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	89	0.022	0.022	0.008	0.008
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	112	0.002	0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	89	0.007	0.007	0.005	0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの含量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
すいか (施設) (果肉) 昭和62年度	—	日植防 牛久 (こだま)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	90	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	132	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	90	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	—	日植防 高知 (紅こだま)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	81	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	112	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +30 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	81	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所	(株)化学分析コンサルタント		
メロン (施設) (果実) 平成3年度	—	石川県 植防 (ア-セイ夏-II)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 40 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	82	0.002	0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	93	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +40 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	82	0.002	0.002	<0.002	<0.002
	—	熊本県 農研セ (セイ夏-II)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 40 kg/10a (本圃) 土壌混和		1	90	0.002	0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ (苗床) 土壌混和		1	103	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	微粒剤(98%) 400 g/m ³ +40 kg/10a (苗床+本圃) 土壌混和		2	90	0.002	0.002	<0.002	<0.002
分析機関名					鳥取県農業試験場			
にがうり (施設) (果実) 平成15年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	鳥取県 圃試 (沖縄長れいし)	0	—	<0.01	<0.01		
			1	81	<0.01	<0.01		
		鹿児島県 圃試 (か交5号)	0	—	<0.01	<0.01		
			1	63	0.02	0.02		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成元年度	—	日植防 牛久 (オーライ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	60	0.005	0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	60	0.005	0.005	<0.005	<0.005
	—	岐阜県 植防 (オリオン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	53	0.005	0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	53	0.010	0.010	0.006	0.006
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成5年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久	0	—	0.002	0.002	0.004	0.004
		(強力オーライ)	1	52	0.014	0.014	0.016	0.015
			1	56	0.023	0.023	0.014	0.014
		京都府 農総研 (サンライト)	0	—	0.003	0.003	0.003	0.003
			1	45	0.023	0.023	0.015	0.014
1	49	0.023	0.023	0.014	0.014			
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成8年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	新潟県 中山間農技セ	0	—			<0.002	<0.002
		(アトランタ)	1	50			0.059	0.058
			1	55			0.015	0.014
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成8年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	長野県 営農技セ (おかめ)	0	—			0.004	0.004
		岐阜県 植防 (サンライト)	1	55			0.025	0.025
			0	—			<0.002	<0.002
		奈良県 植防 (エスパー)	1	41			<0.002	<0.002
			0	—			<0.002	<0.002
1	39			0.028	0.028			
徳島県 植防 (おかめ)	0	—			<0.002	<0.002		
1	47			0.005	0.005			

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成9年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	岩手県 植防 (アクティブ)	0 1	— 51			<0.002 0.012	<0.002 0.012
		群馬県 圃試 (アクティブ)	0 1	— 48			0.009 0.008	0.008 0.008
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
しょうが (露地) (根茎) 平成元年度	—	日植防 牛久 (三州)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	191	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	191	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	—	高知県 農技研 (大ショウガ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	202	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	202	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
しょうが (露地) (根茎) 平成18年度	微粒剤(98%) 60 kg/10a 土壌混和	日植防 牛久 (三州赤目)	0	—	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	197	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	204	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	211	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
		日植防 高知 (大ショウガ)	0	—	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	224	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	231	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
			1	238	<0.02	<0.02	<0.008	<0.008
分析機関名					(財)日本食品分析センター			
葉しょうが (施設) (根茎及び茎) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	千葉県 農総研 柏 (在来種)	0	—	<0.008	<0.008		
			1	115	<0.008	<0.008		
			1	120	<0.008	<0.008		
			1	127	<0.008	<0.008		
		千葉県 農総研 八街 (三州)	0	—	<0.008	<0.008		
			1	97	<0.008	<0.008		
			1	104	<0.008	<0.008		
			1	111	<0.008	<0.008		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果			
					とダゾメットの含量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
えんどう (施設) (未成熟子実) 平成4年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	和歌山県 植 防 (うすい)	0 1	— 200			<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		鹿児島県 農 試 (グリーントップ)	0 1	— 112			0.002 0.003	0.002 0.003
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
さやえんどう (施設) (さや) 平成4年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	和歌山県 植 防 (オランダ)	0 1	— 161	<0.002 0.007	<0.002 0.006	<0.002 0.003	<0.002 0.003
		鹿児島県 農 試	0 1	— 96	0.009 0.018	0.009 0.018	<0.002 0.003	<0.002 0.003
		(ニムラ赤花2号)	0 1	— 103	0.006 0.011	0.006 0.011	— —	— —

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公 的 分 析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)日曹分析センター	
未成熟いんげん (施設) (さや) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	高知県 農技セ (キーストン 筋なし江戸川)	0 1	— 69	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		鹿児島県 農 試 (すじなし江戸川)	0 1	— 82	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
分析機関名					群馬県農業技術センター		(株)日曹分析センター	
えだまめ (施設) (さや) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	群馬県 農技セ (天ヶ峰)	0 1	— 82	<0.009 <0.009	<0.009 <0.009	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
		静岡県 農 試 (サヤムスメ)	0 1	— 79	<0.009 <0.009	<0.009 <0.009	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004
分析機関名							日本エコテック(株)	
モロヘイヤ (施設) (茎葉) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	沖縄県 農 試 (うるま) (JA種子)	0 1 1	— 92 99			<0.008 <0.008 <0.008	<0.008 <0.008 <0.008
		沖縄県 病害虫防除所 (開帳系統)	0 1 1	— 101 108			<0.008 <0.008 <0.008	<0.008 <0.008 <0.008
分析機関名					(財)日本食品分析センター			
つるむらさき (施設) (茎葉) 平成15年度	—	宮城県 農園総研(蔵王) (—)	0	—	<0.004	<0.004		
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	57	<0.004	<0.004		
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	57	<0.004	<0.004		
	—	宮城県 農園総研(角田) (—)	0	—	<0.004	<0.004		
	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和		1	57	<0.004	<0.004		
	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和		1	57	<0.004	<0.004		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(株)エコプロ・リサーチ			
さといも(葉柄) (施設) (葉柄) 平成16年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	愛知県 農総試弥富町 (在来種)	0 1	— 125			<0.009 <0.009	<0.009 <0.009
		愛知県 農総試稲沢市 (在来種)	0 1	— 125			<0.009 <0.009	<0.009 <0.009
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
りんご (露地) (果実) 昭和55年度 昭和57年度	微粒剤(98%) 200 g/m ² 土壌混和	岩手県 圃 試 (ふじ無袋)	0 1	— 563	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
	微粒剤(98%) 100 g/m ² 土壌混和	長野県 果 試 (ふじ有袋)	0 1	— 1097	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
なし (露地・有袋) (果実) 平成7年度	微粒剤(98%) 100 kg/10a 土壌混和	広島県 農技セ 作木村 (二十世紀 ニホンヤマナシ)	0 1	— 1503			<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
		広島県 農技セ 甲田町 (二十世紀マンシュ ウマメナシ)	0 1	— 1502			<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
いちご (露地) (果実) 昭和58年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	日植防 牛 久 (麗 紅)	0 1	— 68			<0.005 <0.005	<0.005 <0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの合量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(財)残留農薬研究所		(株)化学分析コンサルタント	
いちご (施設) (果実) 昭和62年度	—	長野県 植 防 (れい紅)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌処理		1	164	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (仮苗床) 土壌処理		1	215	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (仮苗床+本圃) 土壌処理		2	164	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	—	静岡県 農業試 (女 峰)	0	—	0.007	0.007	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (本圃) 土壌処理		1	124	0.005	0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (仮苗床) 土壌処理		1	184	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	微粒剤(98%) 30 kg/10a (仮苗床+本圃) 土壌処理		2	124	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					とダゾメットの含量値			
					公的 分析		社 内 分 析	
					最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
分析機関名					(社)長崎県食品衛生協会			
チャービル (施設) (茎葉) 平成17年度 平成18年度	微粒剤(98%) 20 kg/10a 土壌混和	福岡県 農総試 (チャービル)	0 1	— 112	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01		
		福岡県 農総試 (チャービル)	0 1	— 87	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01		
分析機関名					(財)残留農薬研究所			
みょうが (施設) (可食部) 平成4年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	岡山県 農 試 (—)	0 1	— 143	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002		
		岡山県 農 試 (—)	0 1	— 172	<0.002 0.002	<0.002 0.002		
分析機関名					(財)残留農薬研究所		和歌山県農業試験場	
しそ (露地) (茎葉) 平成7年度	微粒剤(98%) 30 kg/10a 土壌混和	和歌山県 農 試 (ちちみ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	104	0.002	0.002	0.006	0.006
			1	110	<0.002	<0.002	0.005	0.005
			1	124	<0.002	<0.002	0.005	0.004
		愛媛県 病害虫防除所 (半ちちみ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
1	112* ₁		0.005	0.005	0.004	0.004		
1	112* ₂		0.003	0.003	0.006	0.005		
		1	112* ₃	0.005	0.005	0.005	0.005	

*₁ 播種 14 日前処理

*₂ 播種 20 日前処理

*₃ 播種 30 日前処理

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

2. 土壌残留性試験

(1) 分析法の原理と操作概要

a. ダゾメットの分析

原 理

ダゾメットをジクロロメタンで抽出し、高速液体クロマトグラフを用いて定量する。

操作概要

試料に無水硫酸ナトリウムおよびジクロロメタン（必要に応じて、ジエチルジチオカルバミン酸ナトリウムを添加）を加えて振とう抽出する。濾過後、残留物をジクロロメタンで2回洗浄する。洗液を同様に濾過して濾液を合わせ、30℃以下の水浴中で減圧濃縮する。濃縮液をシリカゲルミニカラムで精製後、高速液体クロマトグラフにより定量する。なお、容器内試験では、試料からのジクロロメタン抽出液を直接高速液体クロマトグラフに注入して定量した。

b. の分析法

原 理

連続抽出により に変化する化合物（主としてダゾメット）の含量を、ガスクロマトグラフを用いて定量する。

操作概要

試料に水およびヘキサンを加え連続抽出装置に接続し、30分間～1時間還流煮沸する。受器のヘキサンおよび水を取り、ヘキサン層を分取後してガスクロマトグラフ（N-P、FID）により定量する。

(2) 分析対象の化合物

a. ダゾメット

化学名： Tetrahydro-3,5-dimethyl-1,3,5-thiadiazine-2-thione
3,5-ジメチルテトラヒドロ-2H-1,3,5-チアジアジン-2-チオン

分子式（分子量）： C₅H₁₀N₂S₂（162.3）

b.

化学名：

分子式（分子量）：

(3) 残留試験結果

ダゾメットについては、土壌中に残留する親化合物（ダゾメット）のみの分析値として示した。また、 については、連続抽出により に変化する化合物の含量（ダゾメットおよび の含量）をダゾメットに換算*した値として示した（*ダゾメットと の分子量比 2.22 を乗じて算出）。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

① 圃場試験

推定半減期

	ダゾメットおよび (ダゾメット換算値)の含量	ダゾメット
火山灰・軽埴土（日植防研究所）	5.9 日	3.9 日
沖積・砂埴土（滋賀県立短大）	10.0 日	7.5 日

試験結果

分析機関；(財) 残留農薬研究所

試料調製 及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・ 回数	処 理 回 数	経 過 日 数	分 析 値 (ppm)			
				ダゾメットおよび の含量 (ダゾメット換算値)		ダゾメット	
				最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
日本植物防疫協会 研究所 (茨城) (火山灰・軽埴土)	微粒剤 (98%) 30 kg/10a 1回処理	—	—	0.12	0.12	< 0.005	< 0.005
		1	0	106	104	15.7	15.0
		1	1	21.6	21.2	0.321	0.316
		1	2	7.59	7.28	0.191	0.186
		1	3	8.64	8.36	0.264	0.256
		1	5	6.70	6.69	0.114	0.111
		1	10	2.46	2.46	0.057	0.055
		1	13	2.35	2.32	0.057	0.054
		1	15	2.01	1.98	0.060	0.059
		1	20	1.74	1.74	0.026	0.025
1	30	1.01	1.00	0.005	0.005		
滋賀県立短期大学 (滋賀) (沖積・砂埴土)	微粒剤 (98%) 30 kg/10a 1回処理	—	—	0.62	0.62	< 0.005	< 0.005
		1	0	43.1	42.6	0.185	0.176
		1	1	33.5	32.8	0.269	0.262
		1	2	40.6	40.3	1.13	1.08
		1	3	15.6	15.5	0.133	0.130
		1	5	15.1	15.0	0.207	0.198
		1	10	12.3	12.3	0.069	0.068
		1	13	9.08	8.92	0.033	0.032
		1	15	8.44	8.42	0.047	0.046
		1	20	7.73	7.65	0.146	0.144
1	30	5.00	4.98	0.017	0.016		

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

② 容器内試験

推定半減期

	ダゾメットおよび (ダゾメット換算値) の含量	ダゾメット
火山灰・軽埴土 (茨 城)	16 時間	0.2 時間
沖 積・砂埴土 (滋 賀)	14 時間	0.4 時間

試験結果

分析機関；(財) 残留農薬研究所

試料調製 及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・ 回数	処 理 回 数	経 過 日 数	分 析 値 (ppm)			
				ダゾメットおよび の含量 (ダゾメット換算値)		ダゾメット	
				最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値
日本植物防疫協会 研究所 (茨 城) (火山灰・軽埴土)	純 品 300 ppm	—	—	< 1	< 1	< 1	< 1
		1	0	304	290	242	242
		1	1	—	—	3	3
		1	3	—	—	< 1	< 1
		1	6	161	158	< 1	< 1
		1	24	84	78	< 1	< 1
		1	48	34	32	—	—
1	72	12	10	—	—		
滋賀県立短期大学 (滋 賀) (沖積・砂埴土)	純 品 300 ppm	—	—	< 1	< 1	< 1	< 1
		1	0	302	298	265	260
		1	1	—	—	86	80
		1	3	—	—	3	2
		1	6	144	142	< 1	< 1
		1	24	53	46	< 1	< 1
		1	48	23	19	—	—
1	72	10	8	—	—		

—：分析未実施

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

1. 水産動植物に対する影響

資料 No.	試験の種類 ・被験物質	供試 生物	1 群 当りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又は EC ₅₀ 値[mg/L] ^{※3}				試験 機関 (報告年) ※1	掲 載 項
						24h	48h	72h	96h		
有 1 (GLP)	魚類急性毒性 原 体	コ イ	10	半止 水式	21.6 ～ 22.3	>74	58	43	37	日本食品 分析センター (2002 年)	VI-2
有 2 (GLP)	ミジンコ類 急性遊泳阻害 原 体	オオミジ ンコ	10 頭× 2 反復	流水式	20～ 21	>48	19	—	—	SLI (1994 年)	VI-4
有 3 (GLP)	藻類生長阻害 原 体	緑藻 ^{※2}	初期濃度 1×10 ⁴ cells/mL (3 連)	振とう 培養法	22～ 25	E _r C ₅₀ (0-72hr) : 0.56				SLI (1994 年)	VI-5

※1 : SLI ; Springborn Laboratories, Inc.

※2 : *Pseudokirchneriella subcapitata*

※3 : 平均実測濃度に基づく値

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

1) 魚類急性毒性

コイを用いた急性毒性試験

(資料 No.有 1)

試験機関：(財)日本食品分析センター
[GLP 対応]

報告書作成年：2002 年

被検物質：ダゾメット原体

供試生物：コイ (*Cyprinus carpio*)、1 群各 10 匹、全長 4.7~4.9cm (平均 4.8 cm)
体重 1.1~1.4 g (平均 1.2 g)

試験方法：

暴露条件 ; 半止水式 (24 時間毎全量換水)
試験容器 ; 50 L
試験水 ; 水道水を脱塩素したもの
pH ; 7.4~8.0
溶存酸素濃度 ; 6.9~9.3 mg/L
照 明 ; 16 時間明
給 餌 ; 無給餌
試験液の調製方法 ; 被検物質を希釈水に直接添加して、各濃度区の試験水を調製した。

試験水温：21.6~22.3 °C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0、32、42、56、75、100
	平均実測濃度	0、20、28、40、56、74
LC ₅₀ * (mg/L)	24 時間	>74
	48 時間	58
	72 時間	43
	96 時間	37
NOEC* (mg/L)	20	

*：平均実測濃度に基づく値

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

症状としては、28mg/L 試験区において腹囲膨満が、40mg/L 試験区で横転、腹囲膨満、不活発、立鱗が観察された。56 及び 74 mg/L 試験区では、試験 72 時間までに全群死亡した。

試験液中の被験物質濃度の測定結果は、試験開始時は、28、37、51、69、93 mg/L (設定濃度の 88~93%)、試験終了時は 13、20、31、-※、-※ mg/L (設定濃度の 41~55 %) であった。

*試験生物全例死亡

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料 No.有 2)

試験機関：Springborn Laboratories, Inc. (米国)

[GLP 対応]

報告書作成年：1994 年

被検物質：ダノメット原体

供試生物：オオミジンコ (*Daphnia magna*)、1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の幼体)

試験方法：

暴露条件 ; 流水式
試験水の pH ; 7.9~8.3
溶存酸素濃度 ; 飽和濃度の 60%以上を維持
総硬度 ; 160~190 mg/L (CaCO₃換算)
総アルカリ度 ; 110~130 mg/L (CaCO₃換算)
照明 ; 16 時間明
給餌 ; 無給餌
試験液の調製方法 ; 試験液は、DMF に溶解させた保存溶液を希釈装置と定量ポンプを用いて試験用水と一定の割合に混合し、マグネチックスターラーで攪拌し連続的に調整した。

試験水温：20~21 °C

結果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0、0(溶媒対照)、3.1、6.3、13、25、50
	実測濃度	0、0(溶媒対照)、3.0、6.1、11、24、48
EC ₅₀ * (mg/L) [95%信頼限界]	24 時間	>48 [-]
	48 時間	19 [15~25]
NOEC* (mg/L)		6.1

*：平均実測濃度に基づく値

症状としては、瀕死状態 (嗜眠) が 11、24 及び 48 mg/L 試験区で認められた。試験液中の被検物質濃度の測定結果は、試験開始時は 2.8、5.5、11、22、44 mg/L (設定濃度の 85~90%)、試験終了時は 3.4、6.7、12、26、52 (設定濃度の 92~110%) であった。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

3) 藻類生長阻害試験

(資料 No. 有 3)

試験機関：Springborn Laboratories, Inc. (米国)

[GLP 対応]

報告書作成年：1994 年

被検物質：ダゾメット原体

供試生物：淡水緑藻 (*Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期生物量 1×10^4 cells/mL

試験方法：

培養方法 ; 振とう培養

試験培地 ; 脱イオン水で調製した培養液

照明 ; 連続照明 6000~8000 Lux

試験液の調製方法 ; 被検物質をジメチルホルムアミド (DMF) に溶解して調製した 50 mg/L の試験原液を適切量の AAP 培養液で希釈することにより、各試験溶液を調製した。

培養温度：25°C

結果：

試験濃度 ($\mu\text{g/L}$)	設定濃度	0、0.16、0.31、0.63、1.3、2.5、5.0
	平均実測濃度	0、0.056、0.099、0.22、0.49、1.0、2.1
E _r C ₅₀ (mg/L)** [95%信頼限界]		(0~72hr) 0.5 [0.20~1.3]
NOECr (mg/L)**		(0~72hr) 0.056

**：平均実測濃度に基づく値

外見等の異常としては、0.49 mg/L 以上の試験区において細胞の断片が認められ、さらに全試験区において膨張した細胞が認められた。

試験液中の被検物質濃度の測定結果は、試験開始時は 0.088、0.16、0.35、0.72、1.4、2.9 mg/L (設定濃度の 52~58%)、試験終了時は 0.024、0.041、0.10、0.26、0.70、1.3 mg/L (設定濃度の 13~28%) であった。

本資料に記載された情報に係る権利および内容の責任はアグロカネショウ株式会社にある。

2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響

2-1. 蚕

剤型、使用方法等からみて、蚕が桑葉を摂食する等により暴露するおそれがないと考えられるため、試験を省略した。

2-2. ミツバチ

剤型、使用方法等からみて、ミツバチが暴露するおそれがないと考えられるため、試験を省略した。

2-3. 天敵

剤型、使用方法等からみて、天敵昆虫等が暴露するおそれがないと考えられるため、試験を省略した。

2-4. 鳥類

資料 No.	試験の種類・被験物質	供試生物	1群当りの供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 又はLC ₅₀ 及び無影響量 (mg/kg)	観察された影響等	試験機関 (報告年)
有 4	急性経口毒性原体	コリンウズラ	雌雄各 5	強制経口投与	0 200 299 448 670 1002	LD ₅₀ : 508	被験物質投与直後、全ての試験動物が群がり、静穏状態となった。観察期間を通して、死亡が見られた。試験3日以降の全ての死亡動物に、死亡前の体重低下が認められた。剖検では、被験物質を投与された多くの鳥に削癩、そ嚢壁肥厚およびそ嚢内に飼料と思われる固形物がみられた。対照群については、観察期間を通して異常はみられなかった。	HRC (1979年)
有 5	混餌投与毒性原体	コリンウズラ	各 10	5日間混餌投与	0 185 556 1667 5000	LC ₅₀ : >5000 NOEC: 185	5000mg/kg 用量群において、無気力、全身衰弱が認められた。他の用量群では、被験物質投与に関連した影響は何らみられなかった。	BASF (1986年)

HRC: Huntingdon Research Centre

BASF: BASF Aktiengesellschaft

VII. 使用時安全上の注意、解毒法等

1. 使用時安全上の注意事項

医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直

- (1) ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
本剤の処理の際は吸収缶付き（活性炭入り）防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用すること。ガス抜き作業の際及びガス抜き作業前に施設内
- (4) に立ち入る場合にも同様の防護マスクを着用すること。また、薬剤が皮膚に付着したり、粉末や発生するガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等を十分配慮すること。
- (8) 作業中及びくん蒸中の圃場等へ小児等作業に関係ないものや、家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意すること。
- (9) 住宅付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮し、特に住宅に隣接する圃場では使用しないこと。
- (10) 水にふれると有毒なガスが発生するので保管及び取扱いに注意すること。

2. 製造時、使用時における事故例

現在まで、製造時あるいは使用時における事故例はない。

尚、ダゾメットについては現時点で適切な解毒法がないことから、下記の対処療法を施すことが妥当である旨、平成4年10月の「使用時安全委員会」において承認された。

- ・ 汚染した衣類を取り除くこと。
- ・ 汚染した皮膚、眼等を十分な水で洗うこと。
- ・ もし、飲み込んだ場合には、吐き出させること。
- ・ 吸収を促進させるような牛乳、アルコール等は与えないこと。
- ・ 医薬用の活性炭を投与すること。
- ・ 新鮮な空気のある場所に移し、衰弱しているようであれば安定した場所に横たえ、呼吸が止まるようであれば人工呼吸を施すこと。